

## 授業改善推進プラン < 英語科 >

### ( 英語 ) 科 における令和元年度授業改善推進プランの検証

- 1 学年：全体的に「聞くこと」「話すこと」への苦手意識は少ないが、「文法事項の理解」や「書くこと」への苦手意識をもつ生徒が多い。
- 2 学年：「表現の力」のうち、自分が伝えたいことを英語で表す活動を行っている。  
「書くこと」に対して苦手意識を持つ生徒がいることが課題である。
- 3 学年：帯活動で継続的に行ってきたことを、定期考査の「表現の力」の問題で試すことで、授業でのがんばりが定期考査での結果に反映されている。

### ( 英語 ) 科 における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>2 学年：正答率についていえば、全カテゴリーで区と全国平均の両方を上回っており、とくに「聞くこと」に関しては目標値 55.6 点に対し 66.3 点を記録した。ただし、達成度 80%~90%の生徒の割合については区を下回っているため、応用的な課題に取り組む能力が不足している生徒が一定数存在すると推測される。</p> <p>3 学年：目標値に対しては、ほぼ全ての項目において目標値を上回った。 知識・理解の分野において、特に「単語を書く」点で5ポイント以上下がっている項目が、8項目中2項目あった。</p>
観点集の分析	<p>2 学年：全ての項目で目標値を上回っているため、基礎的な能力が定着しているといえる。</p> <p>3 学年：「関心・意欲・態度」と「理解の能力」に比べて、「表現の力」と「知識・理解」が低い。</p>

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 2 学年：基礎的な単語や文法の知識などを活用し、自分の意見や考えを他者に伝えるための応用的なライティング、スピーキング活動を行う。
- 3 学年：教科書本文の書き取りをして、「書く力」を伸ばすことで、「表現の能力」を伸ばしていきたい。  
また、長文読解を活用して、単語及び連語の語彙数を増やしていく。

### ( 英語 ) 科 の授業改善策

- スピーキングテストなどのコミュニケーション活動を多く取り入れ、表現力を高める。
- ペアワークや発表などの機会を増やし、「やりとり」「発表」する力を高める。
- 帯活動で継続的に行ってきたことを、定期考査の「表現の力」の問題で試すなど、授業でのがんばりが定期考査などの結果に反映されるような工夫をしていく。